

早稲田大学日本語教育学会 2019 年 春季大会プログラム
開催日時 2019 年 3 月 16 日 (土) 12:20~18:10

- 【会 場】** 早稲田大学早稲田キャンパス 22 号館 2 階 201・206・207・208 教室／休憩室 202 教室
- 【時 間】**
- 受付 11:50~ (22 号館 2 階エレベーター前)
 - 開会式 12:20~12:30 (22 号館 2 階 201 教室)
 - 口頭発表 12:30~13:35 (22 号館 2 階 201 教室)
 - 実践エキスポ 12:30~13:30 (22 号館 2 階 206 教室)
 - ポスター発表 13:40~14:40 (22 号館 2 階 207・208 教室)
 - ブックセミナー 14:10~14:40 (22 号館 2 階 206 教室)
 - 企画：ワークショップ 14:50~16:20 (22 号館 2 階 201 教室)
 - 企画：活動報告会 16:30~18:00 (22 号館 2 階 201 教室)
 - 総会 18:00~18:10 (22 号館 2 階 201 教室)
 - 懇親会 18:20~19:20 (22 号館 8 階会議室)

【参加費】 会員無料・非会員 500 円 (事前申し込み不要。直接会場までお越しください。)

【懇親会費】 1,000 円 (参加自由。当日受付でお申し込みください。)

※本学会は紙媒体の予稿集は配布しません。予稿集は 3 月 9 日以降、学会ホームページからダウンロード可能になります。モバイル端末にダウンロード、または印刷の上、ご参加ください。

【口頭発表】 12:30~13:35

会場：22 号館 2 階 201 教室	
12:30~13:00	(1)CJL 総合日本語 1~6 で学ぶ学習者の自己評価 —Can-do statement のレベル判断指標としての可能性— 岩下智彦・沖本与子・伊藤奈津美・毛利貴美 (早稲田大学)
13:05~13:35	(2)「…」の使用は汎言語的か—日中英の比較を通して— 相川弓映 (早稲田大学大学院生)

【実践エキスポ】 12:30~13:30

会場：22 号館 2 階 206 教室	
言語聴覚士を目指す日本語母語話者の「言語支援者」としての理念形成 —受講生が作る「言語と思考の支援の場」を通して— 小淵見早 (ウエスレヤン大学)	

【ポスター発表】 13:40~14:40

第一会場：22 号館 2 階 207 教室	第二会場：22 号館 2 階 208 教室
(1)教師の内省を促す要因とは何か —「専門性の三位一体モデル」に基づくワークショップより— 津崎千尋 (早稲田大学大学院修了生)・竹内雪乃・松本明香 (早稲田大学大学院生)・木村かおり・館岡洋子 (早稲田大学)	(3)日本語教師が日本語教育研究に乖離を感じる要因 —日本語学校に勤める日本語教師が研究の当事者意識を持つために— 伊藤茉莉奈・小淵見早 (早稲田大学大学院生)
(2)大学院生の自主ゼミにおける質疑応答の大話段の構造分析 余沛然 (早稲田大学大学院修了生)	(4)日本語教科書の分析をとおした引用指導に関する一考察 —自分の論への組み込みを観点に— 千仙永・坂本麻裕子 (早稲田大学)

【ブックセミナー】 14:10～14:40

会場：22号館2階206教室

今、著者が語る日本語教育 木下直子・中川千恵子（著）『ひとりでも学べる日本語の発音』（ひつじ書房）
木下直子（早稲田大学）

【企画：ワークショップ】 14:50～16:20

会場：22号館2階201教室

日本語教育は何ができるか考えるワークショップ—新たな在留資格「特定技能」の創設を目前にして—
＜ファシリテーター＞加納雅美・岡本英久・小澤さやか・國橋さゆる・宮内健太郎（早稲田大学大学院生）

【企画：活動報告会】 16:30～18:00

会場：22号館2階201教室

2018年度海外実践派遣プログラム活動報告会—ベトナム、セルビア、ハンガリー、ドイツでの活動を終えて—
＜進行＞福島青史（早稲田大学）
＜発表者＞志賀千晃・志水美友・曾根さやか・吉浦芽里（早稲田大学大学院生）